

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 ヨハネによる福音書 15:1-17

2025年7月2日(水)

◆文脈と言葉

- 「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」でよく知られているであろう箇所です。この主イエスの説教が告別説教の中で語られたということは大きな意味を持つのではないのでしょうか。
- ぶどうの木の説教は「わたしは去っていくが、また、あなたがたのところへ戻って来る」(28節)の言葉の下に語られています。主イエスが今は世を去らねばならないのにもかかわらず、再び来られる再臨の時まで、弟子たちはなお主イエスにつながっていることができます。それは聖霊の働き(15, 26節)なのです。

◆黙想のすじみち

(1)あらすじと説き明かし

- 1-8節：主イエスは、弟子たちに新しい掟(13:34)に生きるように願っておられます。それは互いに愛し合うことです。そのために弟子を清くし(13:10, 15:3)、主イエスにつながらせてくださっています。主イエスが地上を去られた後もつながっていると、主イエスの言葉を内に持つということです(7節)。そうして豊かに実った実を父なる神は終わりの日に収穫してくださいます。そのことで父なる神ご自身が栄光をお受けになるのです(8節)。
- 9-17節：ここで主イエスにつながっているということは、主イエスの愛にとどまることであることが明らかにされます。主イエスご自身が父の愛の内におられるように、弟子たち(わたしたち)も主イエスの愛にとどまることができます。わたしたちは父・子・聖霊の交わりの中に入れていただくのです。
- 愛のしるしとして、主イエスは弟子たちを友と呼ばれます。愛し、喜びを分かち合うのは友だからです。そして究極的の愛は、友のために自分の命を捨てることです。
- しかし、本当に命を捨てたのは、友となってくださった主イエスご自身でした。この愛があって始めてわたしたちは、主イエスがお命じになったように互いに愛し合うことができます。主イエスにつらなり、愛に生き、主イエスの掟に従うことができます。